

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

2007年4月、東京都、埼玉県を中心に南関東地域で麻疹流行

～IDWR 2007年第13号 <http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2007/idwr2007-13.pdf>より抜粋～

感染症発生動向調査によると、2007年第13週の小児科定点からの麻しんの報告数は26（定点当たり報告数0.01）であり、2006年第36週以降の最高値となった。特に埼玉県11例、東京都9例、千葉県、神奈川県各1例であり、南関東地域のこれら4都県で計22例の報告となり、同地域における麻しんの流行は更に進行している可能性が高いと思われる。2006年第36週以降の累積患者報告数は253例であり、年齢別では10～14歳の割合が21.3%と最も多く、1歳児（18.2%）、0歳児（16.6%）を上回っており、2005年までと比較して年長者の報告割合が増加している。基幹定点からの成人麻しんの報告数は、第13週は11例と第12週（9例）よりも更に増加しているが、その

うち8例は東京都からの報告である。成人麻しんは2006年第36週から現在までに54例の報告があるが、そのうち29例が2007年第11週からの3週間の報告であり、その多くが東京都を中心とした南関東地域の4都県からである。

現在東京都や埼玉県を中心とした南関東地域では麻しんが流行しており、入学式、始業式等の学校、幼稚園、保育園行事の実施に伴って、今後流行は更に拡大する可能性が高い。

麻しんは国内からの排除（elimination）を目標とすべき疾患であり、そのためには地域的な流行は積極的に阻止されなければならない。麻しんの流行を阻止するためには、1歳になったらすぐと学童期前の2回目接種を含めた麻しん関連ワ

クチンのより積極的な勧奨が必要であると共に、1例でも発生すればすぐに対応を講じる等の対策が重要である。また今後、麻しん発症者の医療

機関受診の増加に伴い、院内感染事例の増加も危惧されるところであり、医療機関における適切な準備と迅速な対応が望まれる。